

農 業, 林 業

農 業 本県は穏かな気候と広大な沃野に恵まれ、首都に近く地理的条件等からも全国有数の農業県として知られている。

昭和35年世界農林業センサスの結果によると、農家総数は182千戸で昭和32年より次第に農家数は減少の傾向にある。また経営耕地を広狭別にみると1ヘクタール未満（1町歩未満）103千戸で57%，2ヘクタール未満（2町歩未満）69千戸で38%，2ヘクタール以上（2町歩以上）が5%となり、過半数が小規模経営の農家となつている。

つぎに経営耕地面積をみると田97千ヘクタール，樹園地1500ヘクタール，畑73千ヘクタール，田，畑（樹園地＋畑）別では田が57%，畑43%の割合となつている。

昭和34年産の主要農作物についてみると、米が45万3千トンで前年に比し約3万トンの増加となり全国で7位，甘藷は鹿児島県に次ぎ第2位，落花生は5万トンで全国実収高の54%に当る。また房州びわ，洋菜，花卉等も本県特産品として数多く東京市場へ出荷されていることも有名である。

農業機械化 農業機械化も近次次第に普及され昭和35年2月1日現在では動力耕うん機は25019台となり，昭和30年の510台に比して50倍に増加し普及率も13.8%となり，全国普及率の8.5%を上廻つている。また動力源機械（電動機＋発動機）は56.5%で過半数以上の農家が所有している。

林 業 本県は平地林と丘陵とに分けられ，東葛飾，印旛，香取の各郡を含む北総地帯は概ね平坦地で平地林の性格をもち，安房，君津，夷隅の南総地帯は丘陵山林地で地形は比較的急峻で本県林業の主要地を形成している。

林野面積は165618ヘクタールで県総面積の32.9%を占め，樹林地が91%を占め残りが原野，竹林，伐採跡地等になつている。

つぎに木材生産量は34年度において17万立方メートルで，主として製材用，パルプ用材として利用されている。また木炭87万俵，竹材70万束が生産されている。